

農事組合法人 稲和ファーム



経営のプロフィール

農業地帯 平地農業地域
組織形態 オペレーター型
エリア 1集落
農地集積率 42%

経営概要

平成26年度実績
・水稲 (29ha)
・大麦 (4ha)
・備蓄米 (9ha)
・野菜 (30a)

主な施設・機械の保有

・トラクター1台 ・田植機1台
・コンバイン1台 ・乾燥調製施設(処理能力54ha)
・機械格納庫

構成員等

構成員15名

法人設立年月日
平成25年2月1日

認定農業者認定年月日
平成25年3月27日

出資金
30万円

販売額
3,850万円 (平成25年度)

役員名
代表理事：小畑 信一郎, 他5名

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用
東日本大震災農業生産対策交付金
スーパーL資金

1 現在の経営内容等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

① 私たちは、お客様に喜びと感動を与える食材提供に全力を尽くします。

私たちは郷土、下桧和田地区の自然の恵みを大切に活かし、農産物の生産を通じておいしさと楽しさを創造し、人々に感動を与え、地域の自然環境と人々の健やかで豊かな食生活を送れるよう貢献していきます。

② 私たちは、共同精神のもと、地域住民の生活向上に全力を尽くします。

私たちは、地域だけでなく近隣の住民とも力を合わせ、幸せを共有し、今まで以上の住みやすい環境、楽しい人生づくりに貢献していきます。

③ 私たちは、この地域、この組織を担う後継者育成に全力を尽くします。

私たちは、若者がこの下桧和田に定着し、夢を持ち、農業を一生の仕事とするための地域に誇れる経営体を目指します。

(2) 栽培技術の特長

食用米のほとんどはJAあさひなの完熟堆肥「郷の有機」を使った特別栽培米で、高い品質を誇っている。備蓄米については直播栽培を行い、農作業時期の分散を図っている。

(3) 販売の特長

低農薬と化学肥料の減量化による特別栽培米の生産と、お摺り調整設備に光選別機を導入し、高品質の米作りに取り組んでいる。

(4) 経営組織の特長

法人化による更なる高配当を目指して効率的農業投資と低コスト化を進め、起業経営体として戦略的経営に努めている。

(5) 経営管理の特長

当面、転作として備蓄米の直播栽培と園芸作物の導入により、コスト低減と所得増大に努め、土地利用型作物の経営安定を図っている。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

下桧和田地区は耕地面積が約100haで、平成14年の転作組合発足時から同一行政区内に2つの転作組合が組織された。平成18年にそれぞれ生産組合に移行するも、2組織を一元化できなかった。当組織の前身である「下桧和田生産組合」は、平成18年8月に特定農業団体としての認定を受け、全作業完全受託方式を採用し、水稲及び大麦の栽培に取り組んできた。水稲と麦については完全プール方式(面積割利益公平配分方式)で経理を一元化するとともに、稲作は作業農地の再配分(換地)、大麦栽培は団地化を図ってきた。

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

平成23年3月11日の東日本大震災により構成員の作業場、乾燥機等農業施設に甚大な被害を受け、離農を考える構成員も出てきたことから、法人化により個人の農業投資を抑え、営農体制を充実することとした。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

- 規模拡大に向けた直播技術の習得。
- 経営安定のため、土地利用型作物だけでなく園芸等の新規作物の栽培を検討中。
- 集落の農地と環境を守るための後継者の確保。

(2) 今後に向けての経営戦略

- 稲作受託面積の拡大による経営規模の拡大を図っていききたい。
- 露地野菜等の複合部門の更なる充実を図りながら収入確保に努めていきたい。

(調査：仙台農業改良普及センター)

略図



農事組合法人 稲和ファーム

〒981-3403
黒川郡大和町落合桧和田字万五郎二番25-1
TEL 022-725-2448 (FAX兼用)

視察受入条件

受け入れ時期、曜日、時間の制限 特になし
視察料 10,000円
申込先 普及センターにご相談ください